臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき，研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば，他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で，研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて，患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので，下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも，患者さんに不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

胆管癌における胆汁中 S100P 測定の有用性の検討研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院　消化器肝臓内科　（研究責任者）　今津博雄

＜研究期間＞

承認日　　～　　西暦 2022 年　3 月　31 日

＜研究の目的と意義＞

年々胆管癌の罹患率上昇を認めており、2017 年には約 2 万人が胆管癌で死亡したと推定されています。これまで胆管癌の確定診断は、ERCP（endoscopic retrograde cholangiopancreatography，逆行性胆管膵管造影）による胆汁細胞診が行われてきましたが、より正確に診断するためにまだまだ改善の余地があると言われています。S100P というタンパク質が色々な癌で発現していることがわかり、胆管癌のマーカーとして注目されるようになっています。また、胆汁を採取する方法も進歩しており最近は Trefle という新しい器械による胆汁採取が行われています。本研究では、S100P mRNA 測定と Trefle の組み合わせにより胆管癌のさらなる診断率向上が得られるか検討することが目的です。

＜利用する試料・情報の項目＞

①研究対象者基本情報：年齢・性別
②血液生化学検査値：腫瘍マーカー
③画像所見：経腹超音波検査・内視鏡検査・CT・MRI 検査・血管造影検査
④病理診断
⑤胆汁中 S100P mRNA

＜対象となる患者さん＞

当院消化器肝臓内科で西暦 2017 年 4 月から西暦 2022 年 3 月までに胆管狭窄の診断目的で内視鏡治療を施行し、かつ Trefle を使用して胆汁採取を行った方です。

＜研究の方法＞

2017 年 4 月から 2022 年 3 月までに当院にて胆管狭窄の診断目的で ERCP 時に胆汁採取をしており病理診断を行った方の、保存胆汁中の S100P mRNA を測定して、胆管癌の診断に役立つか評価・解析を行います。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）
消化器肝臓内科　　氏名：今津 博雄
電話：03-3972-8111　内線：（医局）2424　（PHS）8044